

小樽洋食処 夢二亭

- 物件名：小樽洋食処 夢二亭
- 住所：入船2-8-1
- 電話：25-4678
- 所有者：奥田哲久
- 運営者：株式会社タボル
- 主任と人員：早川良江（総務主任）、10人
- 建物履歴

- 明治42年頃 塩田別邸として創建
- 昭和27年 風下質店・貸間
- 平成3年 小樽市都市景観賞 株式会社華伸（風下代表）により小樽夢二亭開店
- 平成11年 小樽市歴史的建造物指定
- 平成23年 株式会社華伸事業停止 株式会社タボル（奥田代表）夢二亭～旧塩田別邸～開業
- 平成27年 小樽洋食処 夢二亭と改称

※塩田回漕店 塩田安蔵（二代目）

- 明治15年 新潟県柏崎町で高岡栄助の二男として生まれる
- 明治19年 初代塩田安蔵の養子
- 明治22年 塩田回漕店創業
- 昭和初期 1600トンの貨物船購入、小樽-樺太間の貨客



外観

船に改造して「永宝丸」就航

入船町に広大な土地を持っていたが、市の区画整理に土地を寄贈。

「海運界の風雲児 樺太航路に豪華船造る」

客室は一流料理顔負けの豪華さで、畳はもちろん障子から飾りまで料理屋造り。樺太までの長い船旅はさぞたいくつだろうからと安蔵の肝いりで造られたものだが、その部屋で酒も飲めるという趣向をこらしたものだ。

当時の樺太航路には数十隻の船が通っていたが、「永宝丸」だけはいつも満員だったというから、その評判ぶりが知られようというもの。〈小樽経済 百年の百人 北海タイムス社編〉

■外観

- ①様式／洋風を取り入れた北陸地方の建築様式
- ②樹木／樹齢百余年のおんこの木
- ③撮影用施設／茶屋風に椅子を設置

■内観

- ①欄間／天然記念物屋久杉を使用した双龍浮き彫りの欄間
- ②床板／桁の全面虎斑使用の床板（日本にこれ以上の虎斑はないといわれる）
- ③硝子／ウラン鉱石使用の硝子
- ④玄関／檜戸と御影石畳、秋田杉の千本格子戸、吉野杉天井、古洋照明
- ⑤応接間／薩摩杉天井、古洋照明、本杉透かし欄間
- ⑥むらさきの間／屋久杉欄間、屋久杉の格天井、床柱は正目の鉄刀木、正目檜の床板、正目黒柿の框
- ⑦小でまりの間／阿蘇杉の天井
- ⑧床の間／延寿の床柱、桁の虎斑天然木の床板
- ⑨大でまりの間／本杉天井、杉戸、置床、杉の欄間

■内容

平成23年に奥田氏購入した動機は、小樽にとって貴重な物件を何とか残したい一心。当初記念館を考えていたが、小樽らしい動態保存に舵を切り、小樽活性化に寄与しようと。より多くの人々に見てもらうには大衆化対策が必要で、巡り合わせで現在の仕様へ。

■コンセプト

店内をバリアフリー化し施設の方々も喜ぶ改築。

■客層

地元50％・観光客50％・40～50代が多い、外国人増加中

小樽洋食処 夢二亭



大食堂



樹齢百余年のおんこの木



金庫のある個室



欄間と押し入れを生かした個室



石蔵の個室



引き戸を生かした個室



床の間のある個室



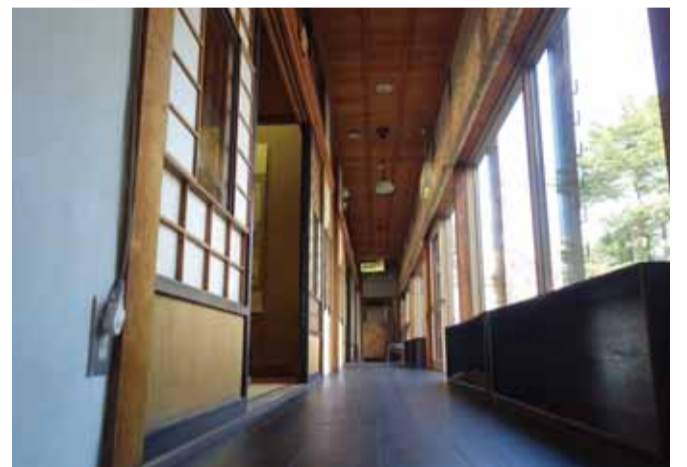
玄関でのお出迎え



石蔵の扉



配電盤もディスプレイ



廊下



石蔵の漆喰壁



早川良江氏